

広東省の新エネルギー車産業 (その3：深圳市の関連政策)

はじめに

前稿¹では、広東省の省都である広州市の省レベルの新エネルギー自動車（NEV）に関する政策を紹介したが、本稿では広東省のもう一つの大都市である深圳市の NEV 関連政策を紹介する。

深圳市の自動車産業

深圳市には NEV 市場でトップシェアを誇る比亞迪（BYD）の本社および工場があり、同社は深圳市の自動車産業の中核となっている。市内の坪山区と竜崗区に工場を擁し、両工場を合わせて計画上の年間生産能力は95万台²となっているという。

また BYD とトヨタが合弁で「BYD TOYOTA EV TECHNOLOGY カンパニー有限公司」（BTET）を2020年に設立³し EV の研究開発を進めている。

広州市は従来型の自動車産業という確固とした基盤があったのに対し、深圳市はそこまで自動車産業は盛んではなかったが、ハイテク産業・製造業が従来より盛んで、イノベーション都市として新興企業が集積するという特色を背景として、2000年代以降研究開発を進め急速に NEV 産業が発展し、特にここ数年の伸びが顕著となっている⁴。

BYD は中国国内で大きな販売シェアを有し、深圳市のみならず陝西省西安市や安徽省合肥市をはじめとした中国各地に工場を設け、今後も新工場を建設する予定があり、またすでに日本をはじめとした海外への展開も積極的に行っているが、その総本部のある深圳市では、次に挙げる政策が発表されている。

「深圳市『次世代世界一流の自動車都市』構築を加速するための三年行動計画（2023－2025）」

2023年8月、深圳市工業・情報化局は、「深圳市『次世代世界一流の自動車都市』構築を加速するための三年行動計画（2023－2025）」⁵を発表した。

本計画は4つの章で構成され、10大プロジェクトを掲げ、その中で30項目の重点任務を

¹ 拙稿「広東省の新エネルギー車産業（その2：広州市政府の関連政策）」

<http://www.tepia.co.jp/tepiamonthly/report/tepia-monthly20231026r.pdf>

² 「超級工廠：比亞迪集団」網易、2023年10月14日。

³ トヨタ自動車HP「BYDとトヨタ、電気自動車の研究開発合弁会社『BYD TOYOTA EV TECHNOLOGY カンパニー有限公司』が発足」2020年4月2日

⁴ BYD および深圳市の NEV 産業発展の経緯については、陳選「王伝福－中国電気自動車産業のパイオニア」（Science Portal China、2017年11月14日）を参考とした。URL:

https://spc.jst.go.jp/hottopics/1712/r1712_wang.html

⁵ 深圳市工業和信息化局「深圳市加快打造“新一代世界一流汽车城”三年行動計劃（2023－2025年）」

http://gxj.sz.gov.cn/gkmlpt/content/10/10764/post_10764130.html#3129

設定している。

2025年までの発展目標としては、以下を掲げている。

- ①NEVの年間生産台数200万台以上
- ②自動車産業の工業生産額1兆円規模への拡大
- ③NEV保有台数130万台を目指す
- ④NEVの新車市場シェア70%
- ⑤年間輸出台数60万台の突破
- ⑥充電スタンド60万基、スーパーチャージャー（急速充電）ステーション300カ所の設置

本計画における10大プロジェクトは以下のとおりである。各プロジェクトに付随し重点任務が設定されている（ここでは注目すべき重点任務のみ取り上げる）。

(1) 重要な核心技術イノベーション・難関攻略プロジェクト

- ・次世代のモジュール化高性能完成車プラットフォームの研究開発の推進。車体全体の軽量化技術、シャーシ一体化技術、多エネルギー動力システム集積技術などのコア技術のイノベーション発展を促進する。
- ・高ニッケル三元正極、コバルトフリー正極、リン酸マンガン鉄リチウム正極、シリコン系負極、リチウム金属負極、固体電解質、新型電解液、軽薄化セパレータなどの先進的な電池材料技術のイノベーションをサポートする。

(2) 産業発展のための基礎の活性化プロジェクト

- ・自動車研究開発プラットフォーム、デジタル監督管理プラットフォームのNEV用バッテリー供給インフラの配置最適化など、産業発展のための基盤を構築する。

(3) 産業空間配置最適化プロジェクト

- ・広東省東部の汕尾市と共同運営する「深汕特別合作区」（汕尾市の西側エリア）で世界レベルの自動車製造都市を建設。
- ・深圳市内の坪山区・竜崗区・南山区・宝安区において、世界トップレベルの自動車研究開発イノベーションセンターを建設。

(4) 産業の規模・品質の向上プロジェクト

- ・完成車の産業チェーンの整備、優位性がある産業の促進、燃料電池・自動運転などの新興産業の強化、自動車のスマート化・デジタル化の促進。

(5) インテリジェント・コネクテッド・ビークル（ICV）高品質発展プロジェクト

- ・人工知能（AI）や高度な通信技術により、高い安全性と高い効率性を兼ね備えた自動運

転を可能とする ICV の大規模化および技術の応用を加速。

- ・ 国家級の ICV パイロットエリアの建設。

(6) グリーン低炭素イノベーションモデルプロジェクト

- ・ 製造時の再生可能エネルギーの利用、メーカー・充電ステーション運営会社・電力企業間の連携、電池材料などの資源回収・利用を促進。

(7) NEV の普及および応用先導プロジェクト

- ・ NEV ナンバープレートの申請条件の緩和
- ・ 公用車・物流車などの NEV 化の促進
- ・ 水素などの燃料電池車、代替燃料車のモデル応用を展開

(8) 自動車産業国際化発展プロジェクト

- ・ 国際交流・協力プラットフォームの立ち上げ
- ・ 大規模輸出拠点の構築による海外進出強化

(9) 品質の標準化・サービス向上プロジェクト

- ・ NEV 国家検査認証プラットフォームの構築
- ・ 新技術・新製品向け標準プラットフォームの構築

(10) 自動車文化創造体験強化プロジェクト

- ・ 深圳市の特色ある自動車文化の創造
- ・ 自動車のテーマパークや展示センターなどの建設の支援
- ・ 新たな自動車販売モデル、中古車取引市場の発展の促進

まとめ

以上に本計画のポイントを整理したが、「深汕特別合作区」については、2011 年から深圳市が主導して産業移転を進めているエリアであるが、NEV の産業クラスターの構築はその中でも目玉の政策となっている。⁶

昨今、中国経済の低迷により NEV 製造・販売もその影響を受け、また米中関係をはじめとする世界的な中国の対外関係の変化などにより、中国の今後の NEV 産業が今後も順調に発展していくか不安視されることもあるが、広東省およびその中心都市である広州市、深圳市の政策を見る限りにおいては、これまでの勢いそのままに生産台数の拡大、品質の向上、関

⁶ 例えば、「海陸聯運、深度融灣，汕尾加速打造千億級新能源汽車産業集群」（澎湃、2023 年 11 月 23 日）などが参考になる。

https://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_25399951

連技術の研究開発、関連インフラの構築などが進むことが予想される。

(石川 晶)